記者発表資料

平成２６年１２月１９日
国土交通省郡山国道事務所
福島県喜多方建設事務所

国道１２１号　会津縦貫北道路の開通区間が延伸し、輸送の効率化に貢献、企業進出等で新たな雇用が創出

郡山国道事務所では会津縦貫北道路の整備を進めており、平成２５年９月８日湯川北ＩＣ～湯川南ＩＣ（２．２ｋｍ）の開通により、会津縦貫北道路全体で１０．１ｋｍが通行可能となっています。
この度、開通１年後の整備効果についてとりまとめましたのでお知らせします。

１．大型貨物車の輸送コストを年間約3千万円削減

２．喜多方市へ企業が12社が進出、2社が増設し、新たな雇用が創出

＜発表記者会：郡山記者クラブ・会津若松市記者クラブ・喜多方日刊新聞記者クラブ＞

【　問　い　合　わ　せ　先　】

国土交通省　東北地方整備局　郡山国道事務所（事業担当）
TEL　０２４－９４６－０３３３
技術副所長　佐藤（さとう）　実（みのる）　（内線：２０４）
調 査 課 長　橋本（はしもと）　幸雄（ゆきお）　（内線：４５１）

福島県　喜多方建設事務所（管理担当）
TEL　０２４１－２４－５７１９（直通）
管 理 課 長　和知（わち）　聡（さとし）

開通1年後

国道121号　会津縦貫北道路

会津縦貫北道路が開通して

（平成25年9月8日　湯川北IC～湯川南IC間　開通）

①大型貨物車の輸送コストを年間約３千万円削減
②喜多方市へ企業１２社が進出、２社が増設し
新たな雇用が創出

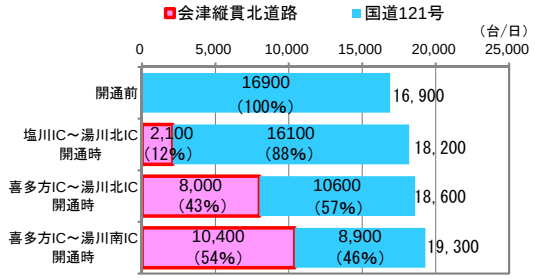
①大型貨物車の輸送コストを年間約３千万円削減

○会津縦貫北道路の開通区間の延伸で、大型車の利用交通量は年々増加しています
○輸送コストは年間約３千万円削減と試算されます



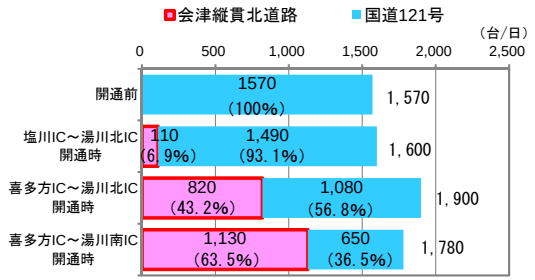
○国道121号から会津縦貫北道路へ交通が転換

▼会津縦貫北道路（塩川IC～湯川北IC）と並行区間（国道121号）の利用交通量の推移



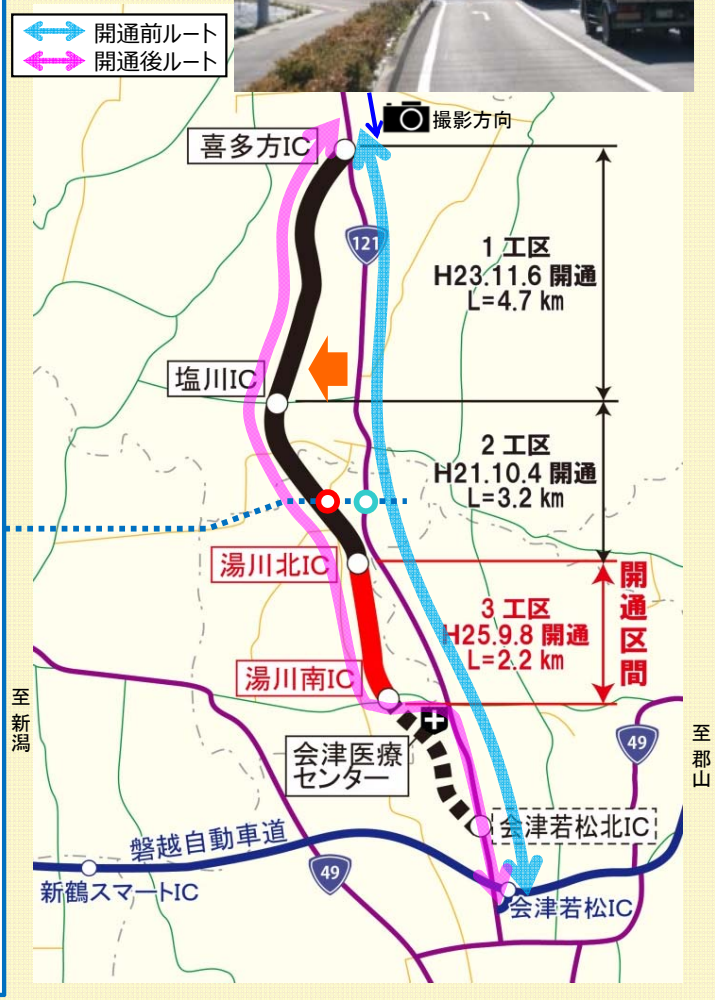
約５割が会津縦貫北道路を利用

【うち大型車】



※開通前：H21.9.29（木）観測値
塩川IC～湯川北IC開通時：
H23.10.27（木） 観測値
喜多方IC～湯川北IC開通時：
H24.11.21（火） 観測値
喜多方IC～湯川南IC開通時：
H26.9.11（木） 観測値

大型車は約6割が会津縦貫北道路を利用

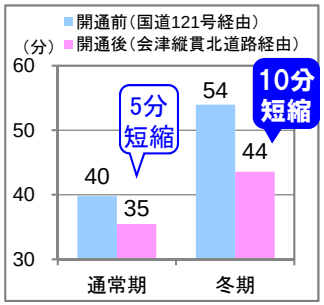


○大型貨物車の輸送コストを削減

《輸送の効率化でコスト削減につながった事例》



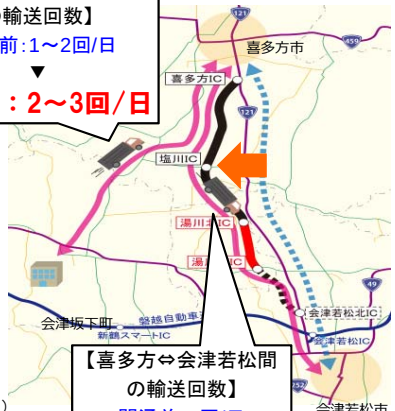
会津縦貫北道路の開通で、輸送時間が短縮（とくに冬場は積雪の影響を受けにくくなり大幅に短縮）し、1日で回れる輸送回数（運搬する量）が増えた。
輸送量の増加と輸送コストの削減につながり、月当りの利益が2～3割上がった。
（会津坂下町　リサイクル業者）



▲所要時間の変化
（喜多方市～会津若松市間）

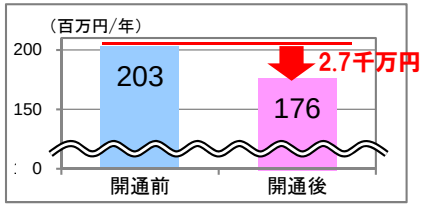
※開通前（国道121号経由）
通常期：民間プローブ（H22.4.1～11.30　平日：8時台）
冬期：民間プローブ（H22.12.1～3.10
会津若松除雪ステーション除雪稼動日（平日：8時台））
開通後（会津縦貫北道路経由）
通常期：H26.9.11（木）観測値　　冬期：H26.2.21（金）観測値

【会津坂下⇔喜多方間の輸送回数】
開通前：1～2回/日
▼
開通後：2～3回/日



【喜多方⇔会津若松間の輸送回数】
開通前：1回/日
▼
開通後：2回/日

《会津縦貫北道路 利用大型貨物車（全車）の輸送コスト試算》



▲会津縦貫北道路を走行する大型貨物車の年間燃料費等

会津縦貫北道路を利用する大型貨物車の燃料費等を
約3千万円削減

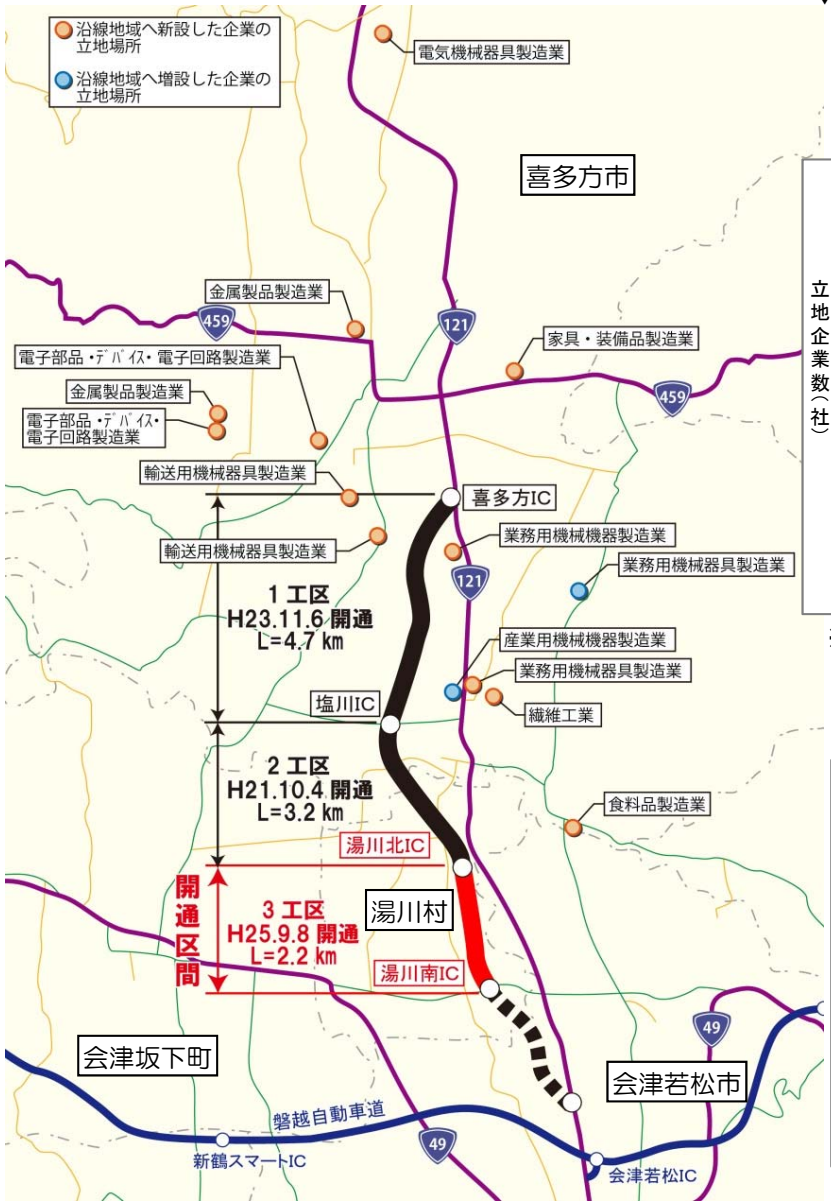
＜輸送コスト試算＞
会津縦貫北道路利用の大型車交通量を元に、開通前「国道121号を利用した場合」と、開通後「会津縦貫北道路（既開通区間）＋国道121号を利用した場合」のそれぞれに対し走行経費を試算。
走行速度は開通前(H23.10.27)、開通後(H26.9.11)の実測データを使用。
走行経費は費用便益分析の走行経費減少便益算出時に用いる原単位を使用。

②喜多方市へ企業１２社が進出、２社が増設し新たな雇用が創出

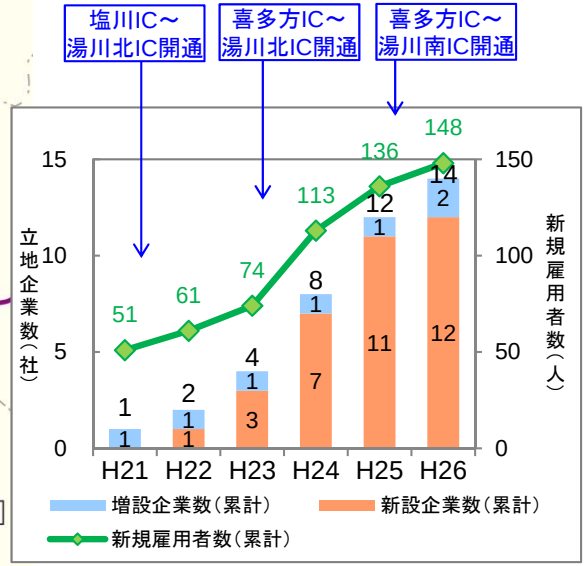
〇会津縦貫北道路が開通したＨ２１年以降、喜多方市へ企業１２社が新設、２社が増設し、新たな雇用の創出に寄与しています

喜多方市への新設・増設企業がH21～H26の6年間で14社（新設：12社、増設：2社）、計148名を新規雇用

▼喜多方市へ新設・増設した企業の立地状況（H21～H26）



▼喜多方市へ新設・増設した企業数・新規雇用者数（累計値）の推移（H21～H26）



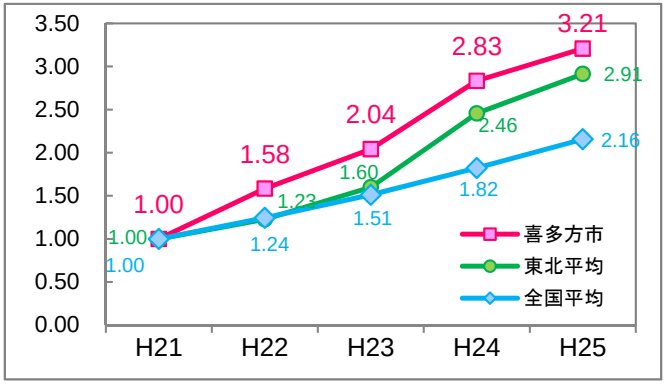
※企業件数は年単位（1月～12月）の集計値
H26は11月時点までの実績値

出典：喜多方市商工課

〇求人倍率が大幅に改善

企業進出に伴い、喜多方市の求人倍率の伸びは約3倍に

▼有効求人倍率の伸び率の推移（H21基準）



※求人倍率は年度単位（4月～翌年3月）の集計値

出典：喜多方市商工課、厚生労働省

《喜多方へ新規に進出した企業の声》



（機械器具製造業者）

平成23年度に喜多方市内に工場を新設した。郡山（本社）と新潟・西会津の取引が多く、中間地点として喜多方を選んだ。輸送時間が正確に読める会津縦貫北道路の開通・計画も喜多方を選んだ１つの要因であった。



（食料品製造業者）

平成25年度に喜多方市内に工場を新設した。秋田・新潟への搬送が多く、会津縦貫北道路の計画も喜多方に立地を決めた要因の１つであった。ドライバーが安心して運転できる、輸送時間が正確に読めることを重視していた。